

「インディアンの女王」

ジョン・ドライデン 作
千葉孝夫 訳

五幕一場

幕が開くと、黄金づくめの太陽神の神殿が見える。白衣に赤い羽根を付けた衣裳を纏った神官四名、犠牲を捧げる用意を整えて、血だらけの祭壇の傍に控えている。

それから、護衛兵達、ゼムボアラ、及びトラクサーラ、登場。インカ王、オレイジア姫、及びモンテズーマ、縛られて登場。彼等が所定の位置に据えられるや否や、一人の神官が唄い始める。

唄

我々が博した勝利を負っている貴方、

その栄光が
犠牲によって、

又、下位にある我々の働きによって増し加わるお

方よ、

今迄一度も、貴方を祀る祭壇は、

神のものにいと近い血を捧げられて、光り輝いたこと

はなかったのです。

彼等が貴方にするように

我々が頭を下げる王侯達については、

貴方は、その人々の王座を奪って、追い落とし、

彼等が権力を喪うことによって、貴方ご自身の権力を

宣言なさるのですな。

ゼムボ さあ、これから、侵略の戦の張本人に相応しい罰を課することになるのです。

その者は、虐げられた世界の人々を欺く為、貴方同様に争いの真実の原因を匿そうとして、詐りの原因を捏造したのですわ。

インカ 私の争いの原因は、神々の全てが、あなたに対して抱いているに違いないのと同じものだったのです、もしも、

善きにつけ悪しきにつけ、

先祖代々伝えられた、乃至は力づくで、流血に訴えて迄も奪した王冠への

その権利資格の間に、何等かの優劣の差があるとしたなら、今回成功を収めたことで得意になるではないぞ、神々が勝利を授けてくれたのは、あなたにはではなく、この人物へなのですからな。

モンテ 自分自ら成功したことで、私が滅びなければならぬからには、

私の不幸不運をより重く、私の罪をより軽く、考えて頂きたい。

して、そのように赦して下さい、私を安らかに死なせて下さい、

こんな疾しい勝利を博した廉で、このように処罰されるといふことだね。

インカ 死は高潔廉潔をより気楽にすることが出来るのだ、私

は赦すぞ。

その言葉は、もしも私が生きていたなら、余りにも苛酷過ぎる、ということになるだろう。

その時には、王侯の名誉面目は否定されるだろうが、

墓穴に入ったなら、差別区別は悉く消えてしまうのだからな。

モンテ 未だもう一つ私のことを赦して下さい。恋をしている、と私が打明けたとて、

もうこれ以上蔑み、乃至怒りの気持をお抱きにならないで下さい。

同じ一つの火炎に灼かれて死ぬことになる以上、私の遺骨はオレイジア姫の亡骸と混ざり合い、抱き合うことになるに違

いありませんからな。

インカ もうこれ以上、大胆不敵なあなたの恋について口にするのは、止めてくれ。あなたを赦す、と言うべき

今わの際のその息をば、死んでしまうことによって、押し殺してしまうといけないからな。

オレイ おお、愛するお父様！ おお、貴方が私に命を授けて下さったからには、一体何故その私が、今や貴方の為に死ん

ではいけないのでしょうか？
モンテ こんな災いが必ず起るように、と工作したのはこの私

だったのです。
それは、万人にとって、正当にして自発的な犠牲だったので

す。

さあ、ゼムボアラ様、公正に、又、優しくもおなり下さい。して、我が宿命を辿るうちに、私に貴女のお慈悲を見出させて下さい。

40

然らば、感謝の念を抱いて下さって、生きている時と同様、死んでからでも、私が取返すことが出来るような、あの評価を私にお授け下さいますように。

オレイ（哭く）おお、残酷なその人に慈悲心を催して貰おう、とはなさらないで下さい。

何人も、自分が愛している人以外の者から、憫れみを求めてはならないのですわ。

インカ 愚かな娘よ、親不孝なお前の目に

45

私が蔑んでいるその者を懸念する色を泛べているとはな。

オレイ 何と恋と本性とが胸を引裂こうとすることか、

何方もその力によつて同時に激しく闘せめぎ合つてね！

だけど、お父様、愛情はより尠せまいように見えますので、貴方は赦して下さることが出来るかも知れないけれど、

貴方を死なせることも、あの人を生かすこともしたくないのです。

50

だけど、もしもあの人死んだなら、ああ、私は一体如何し
たらいいのでしょうか？

私は、あの人と一緒に死ぬことは出来ないし、貴方と一緒に生きることも出来ませんからね。

モンテ 何と空しくも我々は気前のいいこの闘争を続けている

ことでしょう。

生き別れるよりもっと残酷に死に別れるとは！

泣かないで下さい、我々二人は、共に同じ一つの運命を分かち合うことになるのですぞ。

55

同じ一つの炎の包まれて、我々が生きたように、同じ一つの炎に身を投じて、我々は死ぬことになるのですからな。

トラク 一体何故我々は、貴重な時間を何時間も空しく浪費しているのですかな？

彼が生きている一分一分が我々の命を危うくするかも知れませんが、
せんからな。

我が国民は、彼が生を享受している間は、

生きていないのも同然なので、それをぶち壊しているのは、

彼が安全無事であることなのです。

60

先ず最初に彼が死に、他の者に死ぬことを教えさせてやるのですな。

ゼムボ お待ちなさい！

命令を下すのは一体誰なのです！ねえ、貴方なの、それともこの私なの？

熱心さのあまり、貴方はだんだん凶々しくなってきたわね、

間違はなく、貴方は、自分の

皇后が、先ず第一にその誓いを果す自由を認めてもいい筈だわね。

65

トラク 皇后様は許してくれるかも知れませんが己が皇后を

その王座に

昇らせてあげたその男が、正義の業を行う、ということだね。

ゼムポ 貴方は、余りにも大胆不敵になり過ぎているわー

トラク 貴方は、余りにも情熱的にね。そして、

ゼムポ 彼の運命に留意するので、貴方は、自分の運命を追

い立ててはいけませんよ。

(モンテズマに)

が当然抱くべきものですわ。

モンテ あんた以上に、あんたが口にする慈悲にはうんざりし

ますぞ。

トラク それでは、一体何故美しのオレイジア姫は、自分自らに

命を授け、このトラクサーラを生かしてくれようとはなさ

ないのですかな？

モンテ オレイジア姫は、生きたいとは思われず、私を死なし

てもくれるでしょう。

彼女は、始めて私に残酷なこの嫉妬を教えてくださいましたのです。

オレイ 貴方がそのことを悟って下さって、嬉しく思います

わー

あの炎は、不朽不滅の恋の炎のように見えないわね。

死がその温もりを冷やすか、さもなけりや、死がその怖さを

殺し、忘れさせてくれる場合にはね。

ゼムポ (傍白) 私は一体如何したらいいのだろう？ 私はもう

すっかり見放されてしまったので、

誇り高い自分自身からも、侮り蔑む彼からも、助けは得られ

ないのか？

私の恋敵が死ぬ方が、より効果的だ、と分るだろう。

希望期待を裏切られた人は、恋することを止めるかも知れな

いわ。

ほら、この献納物をその死に場所へと連れて行きなさい。

トラク 今の 誰も

命令には従わぬがいい、自分自らの死を招き寄せよう、と思

う者を除いてはな。

ゼムポ 私をそう迄試してはいけません、不実で恩知らずな人

よ。

トラク 貴女と丁度同じ位恩知らずで、不実なのですぞ。

ゼムポ 彼女の運命を心配しているのは、あんたの不実な恋な

のよ。

トラク して、彼を殺させることを懸念していらつしやるの

は、貴女の不実な恋なのですぞ。

ゼムポ 大胆不敵なその叛逆者を捉えよ。

トラク 一体何と軽視されたこ

とから生れた洪面が、

貴女の顔を乱していることでしょう、誰からも惧れられず、

従われてもいないのですからな。

ニさあ、犠牲を捧げる用意をするのだ。

アカーシス、弱々しげに登場。

アカー 待つて、お待ち下さい、そんな犠牲は、勤行に

属するものではありません、いとも厳かな残酷行為なのです。

人間の血を捧げられて、神々が如何して悦ぶ筈がありませんよ
うや？

彼等を残酷とは、お考えなきように、もしも貴女が、彼等の
ことを善良、とお考えになっていらつしやるならばね。

空しくも我々は、彼等が持合せてはいないような、慈悲を
求めており、

彼等が授けてくれる気のないような、惻隱の情をかけてくれ
るものと思つてはいるのですな。

ゼムポ お退りなさい、アカーシス—

お控えなさい、何しろ、彼等の為に、お前が声を限りに

喚きたてたとて、無駄なことなのですからね。運命を決する

誓いはもう既にたてたのですよ。

アカー その誓いを守ることによつて、貴女がより大きな罪を
犯すよりも、それを破る方がもっと正当なのですぞ。

ゼムポ 神々自身は自分達の意志をこよなく雄弁に表現するの
でしょう、

成功を授けてくれることによつて、その誓いが気に入って

る、という意志をね。

アカー もしも世の中のことが悉く成功ということによつて人
に諒解されるものなら、

戦を起す人々は、邪悪になつて、結局は善事を行うというこ
とになりますな。

しかし、貴女は、征服された人々と、

征服した人は、同じ一つの運命を共にすべきだ、と誓いをた
てたのですか？

弁解の余地は全くありませんぞ、何しろ、そのうち一つは貴
女の

献身愛着ではなく、貴女の残酷さの現われに違いありません
からな。

トラク 我々は、何もあの向う見ずな他所者のお蔭を蒙つては
いないのです。

折角引揚げてやつたものを、彼は打倒しようと努めたのだ。

我々の行動を導くべき義務本分が喪われてしまい、

折角の長所も、膨れ上つて傲岸不遜となつたなら、剛勇も罪
であることが分るのです。

アカー 己が君主を裏切つて、その命を敵に売り渡したあんた
が、自分が

投げ捨ててしまつたあの義務本分の名を、敢て一度でも挙げ
ることが出来るものかね？

その他所者にあんたが見せた不法不当宛らに、

あんた自身が犯した罪で彼を咎めだてするとは？―

あんた方勇猛な武人達は、彼を死ぬに任せておくことが出来るものですか、

勝利を授けてくれるということ、あんた達に命を与えてく

れた彼をね？

その他所者^{よそ}を一目眺め、手枷足枷を付けられていた

あんた達に自由を齎した、その手をご覧になって下さい。

一目たりとも上を見上げないでくれ―

突然湧き起った惻隱の情が彼等の心を不意打ちし、

そして、彼等の目を通して、彼等の胸の中へと忍び込むとい

けませんからな。

ゼムポ 一体何故こう迄空しくもお前の弱い心は悩まされてい

ることだろう？

お前がもつと必要としている休息に戻りなさい。

アカー して、オレイジア姫を見捨てて行くのですか？―

ゼムポ

う、お前は諦めなければいけないのです―

何しろ、彼女は、お前のものや、私のものではなく、神々に

ならなければならぬのですからな。

アカー 貴方は私の母上ですな、だから、私の舌はしっかりと

孝順の義務に縛られているので、私は敢て叱りつけることは

出来ませんからな。

神々しいオレイジア姫―

あんたは、人の罪を赦せる程の慈悲憐憫を持合わせているの

ですか？

私は、生きたいという意図を抱いて、そう訊ねている訳では

なく、

死ぬ際に、私が苦痛責苦を感じないで済む為なのです。

死と雖も、それが如何な平安をも齎すことが出来なければ、

死とは言えないのです。

オレイ 私は、赦してもいるし、可哀想だと思ってもいますわ―

アカー おお、もう何も言わないで下さい、それ程優しくない

言葉が、私の心中に

平安と歓喜について、その言葉が出現させたものをぶち壊し

てしまうといけませんからな。

貴女は、可哀想だと思っているし、赦してもいる、と仰有い

ましたな。

もしもこのアカーシスが生きていたなら、貴女はその何方も

為さりたい、とは思われないでしょうな。

死ぬことよつてのみ確かな途が見えてくるのです。

こうして、慈悲をかけて下さるものと期待し、貴女が流され

る泪に相応しい人間になれる途がね。(自刃する)

ゼムポ おお、我が子アカーシス！―

一体如何な残酷な原因が急きたてて、この重大な行爲を行わ

せたのでしょうか。(哭く)

彼は気を喪いかけているわ、助けて、助けて、誰か助けて、さ

120

125

130

135

140

145

もなけりや、彼は多量に出血した挙句、

自分の命と、私の命とは、共に流れ出してしまふことでしょう。

そら、水を持って来なさい——一人たりともその場所から動いてはいけませんよ。

息子の顔に溅いでやるのに、自分の泪を使いましょう。

アカー オレイジア姫——

ゼムボ 愚かな子よ。何故お前は彼女の名前なぞ呼びかけるのです？

この私は貴方の母親なのですよ。

アカー

いや、貴女は私の屈辱の因なのです。

貴女が権利をもっていたあの血は流されてしまったので、

貴方の権利と共に、貴方の罪をもその血が終らせてくれれば

よい。

不佞せな王よ、今こそ貴方は私を赦して下さいような、

こうして、我が母の残酷な誓言故に、血を流しているのです

からな。

インカ 私のことは懸念せぬがよい——

死とは、私が今迄見てきた身分の変化よりも心優しいのだ。

私は生き延びて、二度と再び世間を信頼しようとは思わなぞ。

モンテ この目の中へと悲しみが入り込み始めました。

両手が縛られている時には、滂沱たる泪を流すことも恥では

ないのですからな。

アカー 親愛なるモンテズマ殿、

依然として私は、貴方の友人の俣でいられるでしょうな、尤も、私は彼女を

愛しているという点で、貴方の恋敵として死ななければなりません

がね。未来永劫には、

我々二人を容れるのに充分な余地があるのです。欲望などは丸つきりないので、

亨樂するということが、唯もう讃仰するということに過ぎない所ではね。

い所ではね。

其処で我々は友人として出逢うことになるのですな、この短い風が吹き過ぎてしまったならばね。

モンテ 一体何故私は腑甲斐なくも最後に滅びるのを待って

なければならぬのか？

アカー オレイジア姫が哭いているので、干からびきつた私の

心も

あの優しくも憫れみ深い泪の雨に遭って、清々しくも元氣づ

けられた思いがするのです。

私が情熱に駆られるあまりに犯した、あんな罪咎を赦して下さい

さい。

それを育み育てたこの命で以て、それは罰せられるのですからな。

らな。

今度の窮境にあつて、貴女の命を救う

150

150

170

165

如何な力も私にはなかったし、ましてや、貴女が死なれるのを、手を拱こまぬいただけで、見ている力もありませんでしたぞ。この目は、このものにずっと注がれた俵でいたい、と思つて

いるが、

—優しい死よ—

悦楽と並んで、私の不幸災いを悉く終らせるべく、
貴女の絵姿をば、見えなくなりゆくこの目の中に閉じこめて
下さいますよう。(死ぬ)

一使者、登場。

使者 戦闘準備を、戦闘準備をなさつて下さい！

トラク 一体何故こ

んな恐ろしいことが突然持上つたのか？

使者 警戒を固めて下さい、殿、危険が迫っておりますぞ。

四方八方から大勢の人々が寄り集まり、

家を空っぽにして飛出し、町の通りを埋めているのでござい

ます。(使者、退場)

トラク 愚かな女王よ、空しくも涙を流すことを暫くお控え下

さい。

お立上り下さい、我々はもう一度手を握らなければなりません

んからな—話をするのも、身動きもしないで下さい。

185

ビュービューと吹き荒ぶ烈風宛らに、私には人々の声が聞え
てきまずからな、
飛沫をあげる波をば、岸边迄追つて行つた時のね。

第二の使者、登場。

使者二 戦闘準備をお調べ下さい、殿、追放された女王が、

ガルツカ老人と一緒に、町の通りにいる姿を見られています
ぞ。

トラク 余りにも遅くなり過ぎないうちに、我々は彼等に会い
に行かなければならんな、

ですが、女王よ、お立上り下さい、貴女は、宿命をば、全く
肌で感じてはいらつしやらないのですかな？

第三の使者、登場。

使者三 「モンテズーマの国王陛下！」と、民衆の大喚声が宣言

しております。

町中に新しい君主の名が鳴り轟いているのです。

追放された女王は、彼が自分の息子、と断言しており、
彼を救助しよう、と民衆が挙つて駆けつけていますぞ。

(ゼムポアーラ、立上る)

ゼムポ それは一体本当なのだろうか？ おお、恋よ！ お

195

190

お、宿命よ！ 今迄この私は

これ程不倶戴天の敵への愛に溺れていたのでしょうか？

トラク 自分の新しい君主に、私はこうして忠誠の誓いをたて
ますぞ。

貴女の治世は短いものになりますぞ、若き王よ。（剣を引抜こ
うとする）

ゼムポ

お待ちなさい—

彼が自分の運命を委ねなければならないのは、この私の手な
のです、

自分の恋と憎しみの復讐をば、私は同時にしてやるわ。（彼女

は、短剣をモンテズマの胸に擬する）

トラク 刺して下さい、ずぶりとね、勝利を収めた敵が間近に
迫っているのですぞ、

私の護衛兵達は、貴方が私を此処に引留めている間、窮地に
陥っているのです。

ゼムポ じゃ、死ぬがいい、恩知らずめ、死ぬがいいのだ。ア

メクシアの息子には、

決して勝誇って、我が子アカーシスの王座に昇らせはしない
わ。

お前が死ねば、私の不幸な情炎は取除かれてしまうに違いな
い。

さあ、お前の防禦策は一体何処にあるのかしら—私の恋に対

205

してね？ （彼女は彼の索を切り、彼に短剣を渡す）

トラク 私は裏切られたのか？（彼は剣を引抜いて、モンテ
ズマに突っかかるが、彼はそれを躲して、彼を殺す）

モンテ

者は、残らず死んでしまうがいい。 こんな風に、叛逆者という叛逆

こんな終焉をば、叛逆は残酷と結びつけたのだ。

ゼムポ

私が、愛さない訳にはいかないが、又、憎まずにもい
られないあんたは、生き延びるがいいわ。

そうすれば、自分に非運が齎らされると知っている女が、あ
んたに命を授けたのですよ。

モンテ この私が、オレイジア姫やその父親の為でなければ

選び取らないような人生は、詰らないものですわ。

さあ、インカ王、もしもあんたに出来るものなら、私を憎ん
でみるがいい、何しろ、

あんたが今迄蔑んできたその者が、死ぬことも、あんたを救
援することも、出来るのですからな。（トラクサーラの剣を

揮って、今にも護衛兵達を攻撃しようとする）

アメクシア、

ガルツカ、インディアン達、他の党派の何
人かの者達を前に追いたてながら、登場。

ガルツ 王子様は生きておいでです、神々よ、生きておいでな

のですぞ、偉大なる女王様、此処へこれからの

215

210

貴女の歎びの因がやって来られ、貴女の恐怖が消えてゆくのをご覧下さい。

アメク 驚異と歓喜とが、共にとても疾く流れているので、

それが急いで通って行こうとする為、却ってその通過がのろのろとなってしまうのです。

それは、ぎつしり詰込まれているその水滴が、狭い出口を塞いでいる、

閉じこめられた容器の中で、押し合い圧し合いしている波み
たいなものだわね。

息子よー（彼女、彼を抱擁する）

モンテ 私は喫驚仰天してしまいましたぞ、運命が、これ程迄の
歎びをぞつくりと用意しておいてくれたなんて、信じられない程ですからな。

アメク これが本当なのだ、と確と信じられないものかしら？

モンテ それは、思うに、貴女の所為ではなくて、私の運命の所為なのでしょうな。

ガルツ 先ず最初に、王子様がこのガルツカ老人をご存じかどうか、王子様にお訊ね下さいますよう。

モンテ 尊敬する我が父上、こう迄身を低くして、平伏しますぞ。

ガルツ お止め下さい、偉大なる王子よ、貴方に正当なる君主としての、あの崇敬を払わなければならないのは、この

私なのですからな、

何しろ、貴方は、我々如き下々の出ではなく、あの叛逆者の手で、幸多きその住居へと送られた、

弑逆された我等が国王の御子でいらつしやるのですからな。今は亡きその王は、自分が国王にして貰う為に、叛逆者が神にして差上げた、という訳ですな。

その物語は、お話しするには余にも宿命に充ちておりますが、

さもなければ、その位を篡奪された我等が女王様が、一体如何

な不可思議な運命に遭われたか、ということもね。

アメク その悲惨な物語を話すには、如何しても、もっと長い時間が必要になることでしょう。

私は、世に埋もれて暮し、彼は、貴方を洞穴で育ててくれましたが、

その大きな秘密を貴方のお耳へは入れないようにしていたのよ、若さに任せ、血気にはやって、貴方が何か不思議なコースを辿り進むようになるといけませんでしたからねー

モンテ 私か今日あるのは、悉く彼のお蔭なのです。

彼は、最初私に名声への高潔な渴望を教え込み、腑甲斐ない恐怖を抱く、下劣さをも教示してくれましたが、

遂には不恰好な仔をば、私は獐猛な親熊から挽ぎ取り、山猫や虎に迄も自分に道を譲らせましたが、

225

220

235

240

230

一方、飢えた彼等の顎から、私は餌食を奪い取ったのです。若々しいこの両腕に、最初労働を課し、海難事故の際に

245

私が手に入れた掠奪品で、私を華々しく飾りたててくれたのは、他ならぬ彼だつたのです。

ガルト 貴方は蔭多き森の中で日がな一日過され、

私に、猟の獲物を見せに、嬉々として帰つておいでになりましたな、

自信満々の狩の悦楽の全てに関する話と共に、

250

その猟について語られ、その場所について述べられる為にな。で、遂には、武器を執られるのに相応しくなると、私は、貴

方から遊戯娯楽を斥けました、

貴方という青年をば、ペルーの宮廷にて訓練する為にな。

私は貴方を其処に残して去り、それ以来ずっと、追放された

我が女王陛下の、心鬱ぐお伴をしてきたのです。

255

ゼムボ 私が見た宿命的な夢が、記憶に甦ってくるわ。

私が鉄鎖に縛っていた獅子は、彼だつたのであり、

アメクシアは、その鎖を断ち切つた鳩だつたのです。

今や、このゼムボアールが死ぬ以外に、一体何が残っている

のでしょうか？

モンテ お赦し下さい、美しの王女様、たとえ私が暫しの間

260

我が感謝の念を表明する為、己が愛情をお見せするのを遅らせねばならぬとしてもね。

お生きなさい、ゼムボアール殿、危険から免れて、生き延びるのです。

現在の功績故に、私は過去の罪を赦しますぞ。

おお、彼女が、オレイジア姫の赦免をも望むことが出来れば

いいのに。――

オレイ 貴方を愛しているという廉で、誰も咎めだてされなければよかつたのに、と思えますわ。

私が考えるに、彼女の功績は、彼女の咎落度を遥かに凌いで

265

いるので、

彼女は、私の命をつけ狙いはしましたけれど、結局私を貴方

のものとして、助けてくれたのですわ。

アメク 私自身の今迄の情況とひき較べてみて、この人の今の

情況をお気の毒に思いますわ。

だから、この人に悲運が降り下るのではなく、この人が悔悟

してくれたら、と思えますわ。

インカ 私は、生き延びるように、と一番最後に彼女に言う者

にはなりたくないぞ。

270

帝王たる者は、罪を赦す時にこそ、最も見事に、自分が受け

た不法不当の復讐を遂げたことになるのだからな。

ゼムボ 私は、未だ過去の自分を忘れることは出来ないわ。

貴方は、今迄女王だつた女に命を授けよう、つて言うの？

それじゃ、貴方が授け、私は受取らなければならぬの？

未だ一つだけ

途が取残されているわ。それは、貴方の申し出を拒むことに
よつてだけど、偉大さを喪わぬ途がね。

275

貴方は私に生きろ、と仰有つてゐる―それは、不幸悲惨にな
るように、と仰有つてゐるのと同じことなのよ。

考えて、考えてもご覧なさい、誇り高い者が王座に就いてい
なければ、一体如何なことを味わわなければいけないもの
かをね。

(アカーシスの遺骸を指さしながら) この若者をご覧なさ
い。アメクシア殿、ご覧になつて、それから、

彼を貴女の息子とお考えになり、もう一度生きろ、と私に仰
有つてご覧なさい。

280

新たに折り取られた、薔薇の花から抽出された香りにもまして、
強烈な馨しさがこの唇には宿つてゐるのだ。

一体何という愛すべき魅力が、冷えきつたこの顔に現われて
いることだろう。

誰でも死を嫌つてゐる者が、それがこの顔に現れてゐるのを
見ることが出来るものでしょうか？

ただ、お前はもう逝つてしまつたのだ―

モンテ

おお、アカーシス

殿が私という形をとつて、

生きてゐる、と貴女が信じ、悲嘆してくれるのを止めることが
出来ればいいのに。

285

ゼムボ そうです、私は悲嘆にくれることを止め、生きること

も止めますわ。

彼の魂は、傷を負いながら、この世に留つて、私を見つめて
ゐるのです。

この人生を望ましいものにするこの出来るものは、何もか
も消えてしまつたのです。

オレイジア殿は私が抱いてゐた恋心を受継いでゐるし、貴方
は私の王座を手に入れましたね。

そして、我が子アカーシスは死を得たのです―だけど、私は
死ぬ必要はないのです、

貴方は、私を我が運命を操る女主人の仮にしておいて下さい
ましたからね。

290

それを見て、私が大いに欣んだような夢を見たにも拘らず、
天の真実、乃至は虚偽は、私次第ということになるでしょう。

だけど、私は、神々に手を貸す心算ですわ。

我々が挙げることの出来る、この上ない勇氣の証拠は、
それ故、私達に生きる力があるというのに、死ぬということ
なのですからね。(自刃する)

295

モンテ 何と決定的にもあの死の手先が

匿されてゐたことだろう―

アメク

あの人は息を引取りましたわ。

モンテ ですが、彼処に、ありとあらゆる悲しみの因もとと言つべ
き人物が一人横たわつてゐますぞ。

オレイ あれ程不倅せでありながら、あれ程誠実だった人は今

迄一人もいた例はありませんでしたわ。

モンテ 何卒お赦し下さいませすよう、陛下。

インカ あんたが気に入った

ぞ。(彼にオレイジアの手を与える)

アメク 我が息子よ、神々は目出度い貴方の選択を是認してく
れることでしょう。

モンテ それでは、さあ、愛するオレイジアよ、私と共に気の
毒な

アカーシスを思い出して、一掬の泪を濺ぐ(こうではないか。(彼
女をアカーシスの遺骸の所へ連れて行く)

いとも不思議な運命をば、天は人間にと定めているので、
いともくつきりと晴れわたった我々の好天も、雨混じりとい
うことになるのでしょうか。

何と平等にも、我々の歎びと悲しみとがこの胸内に湧き起っ
てくることだろうか！

決定的な死の勝利が、恋の勝利と合体したのです。

恋は死者に荣誉を担わせ、死は生者の最後を飾るのです、
そのそれぞれが、互いに相手の与えてくれる勝利を手にする
ことが出来るのですからな。(一同退場)

310

300

納め口上

(モンテズーマ口述)

多少共変化をつけてみることによつて、我等が賢者に手を貸
して、これを完成させる為に、

一体如何な方便術策を私共が試すことを余儀なくされている
か、は皆様がご存じでございますな。

今迄一度も見られなかつたような見物みものが見つかるとも知れま
せんし、

今迄一度も出現したことがなかつたような賢者を見つけるこ
とは難しいのです。

皆様は、この旧世界が為すことの出来ることを悉く、今迄ご
覧になつてきた訳でして、

それ故、我々は新しい世界の運命をば試してみたく存じ、
手慣れた皆様の榮知を以て、素朴無教育な

造化に狙いをつけるのは、皆様の目標に届かないもの、と思
つております。

然らば、裸体で過す我等がインディアン達は、賢者が現われ
ると、

むしろ、スペイン人達に当地に居て貰いたい、と思うことで
しような。

成程確かに、皆様には充分なる目標がありますな、筋立て・見

10

5

物・

詩人の手になる各場面、否、更に画家の手になる場面をもね。かかったその費用を考えてみたところ、たとえそれが悉く失敗ということになりましようとも、

紛れもなく、それは喪われしインド諸国への航海ということになるのであります。

ですが、もしも皆様がその全てに目をかけて下さるならば、それなら、これ等の意図は、

我等が心に抱く、完璧ならぬ秘蔵物宛らに、

それが何処へ行こうとも、世間に通用するものとなりましよう、

慈悲深い皆様の手が、その刻印をばわざわざ気前よく押し下さったのでしたなら。

15

注

- (1) 前口上の最初の一〇行で言及されている戦は、ペルー軍とメキシコ軍との間のものだが、後半一二行で「古い予言」が示唆しているのは、(史実上では一時代後に起こる)スペイン軍による征服であり、巧みに観客の支持をそれに取り付けたい、という願望から出たものだ。
- (2) ペルー皇帝(国王)を指しているが、原意は「王統の人」という事で、¹⁾Inca, Inga, Ynca の綴りがある。
- (3) 「インディアン」の女王、「インディアン」の皇帝に出てくる「モンテズマ」(²⁾Montezuma, Montecuzuma) は、史実に基くものではないが、アズテック族の勇猛な君主だった「モンテズマ二世」(一四六六—一五二〇)を指しているようだ。
- (4) ペルー人とメキシコ人とは、互いに知り合ってもおらず、何の交流(渉)もなかったらしい。
- (5) ペルーの伝説によれば、人類の偉大な指導者で親でもある太陽は、³⁾Manco Capac と ⁴⁾Mana Oello Huaco という、兄妹にして夫婦でもある自分の子供(のうちの)二人を、粗野な原住民達に文化文明を教えさせるべく、遣わした、とされる。二人はクスコの渓谷に住みつき、純朴な人々に農業や紡織の業を伝授し、天界のこの二人から、ペルーの王統が生れ出ることになるのだ。
- (6) バツキングラム公爵(二代目)ジョージ・ヴィリアース作「温習会」五。一、ダヴナント作「ロードス島攻略」参照。
- (7) メキシコの軍神とも言うべき「フイツイロポクトリ」(⁵⁾Huitzilopochtli) を指しており、これは、この国の守護神であり、その神殿は、最も荘厳で堂々たる公共建築物で、その祭壇には、多数の人間が犠牲として供えられ、血煙りが立っている程であった。
- (8) 人間を犠牲にするのは、メキシコの殆んど全種族の信仰崇拜の顕著な特長で、テノクティトラン (⁶⁾Tenochtitlan) の大神殿で、アズテック族が大々的に行っていた。彼等は、己が帝国の版図を拡げる為ではなく、神殿に供える犠牲にする捕虜を相当数確保するという公然たる

「インディアンの女王」

- 目的故に、近隣諸国相手に絶えず戦をしていたのだ。
- (5) ↓(9) 三・一・ト書(2行目) モンテズマについて、「彼は一度も足で地面を踏むことなく、何時も貴族達の肩に担われ、運ばれていた」とあるように、ゼムボアールも、(正確には)「奴隷達の肩に(直接)担われていた」のかも知れぬ。
- (6) ↓(10) 三・一・一三 原語の“successive”は、「正統な、嫡出の」(“legitimate”)の意。
- (7) ↓(11) 三・二・五一 ドライデンがこれを書いていた時、彼はエドモンド・スペンサー作「神仙女王」(二・一・三九―四一)に現われる「夢の神」(Morpheus)を思い出していたらしい。
- (12) 三・二・六三 この一行の訳を、「生きているものの姿だけが、この私の心を動揺させられるのだわ。」と訂正したい。シェイクスピア作「マクベス」三・四・一〇二―三参照。
- (13) 三・二・六五 メキシコで尊崇されていた神々は、約二〇〇〇柱あった、とされている。
- (14) 三・二・八一―二 シェイクスピア作「マクベス」四・一・八参照。「腰帯の代りに、黄金の大蛇、彼等の首を取囲む襟と首飾りの代りに、黄金製の人間の心の臓一〇ヶ、して、その首筋には、死神が描かれていた。」サムエル・パークス「巡礼者達」Ⅲ・一一三四参照。
- (16) ↑(8) 「次々と押し寄せる妄想に苛まれる、妻の心の病を癒してやってくれ」という、医師へのマクベスの要請(シェイクスピア作「マクベス」五・三・四〇―四二五)参照。
- (17) メキシコには特別「夢の神」はいなかったようだが、「空の神」(“Tzacalipouca”)は、恐ろしい幻覚幻影の発信者と考えられており、ドライデンも、彼をメキシコの「夢の神」と考えていたものだろう。スカイコッド